



こんにちは!

市議員 井坂博文 です



連絡先/日本共産党北地区委員会：京都市北区紫野雲林院町 78 / 電話 432-3261 / FAX441-4968

市民と野党の共同を あらゆる運動で連帯を

原水爆禁止世界大会に参加して

4日から6日まで開かれた原水爆禁止2018年世界大会。私も京都の代表団約200人の事務局として参加。市会議員からは山田こうじ議員も参加した。

西日本豪雨で大きな被害を受けながら、世界大会を準備していただいた広島の間と関係者のみなさんに感謝!!

開会総会には5千人が参加。かつて原水禁国民会議の事務局を務めていた総がかり行動実行委員会共同代表福山真劫さんが初めて参加して「運動が分裂しては勝てない。市民と野党の共同をあらゆる運動で連帯

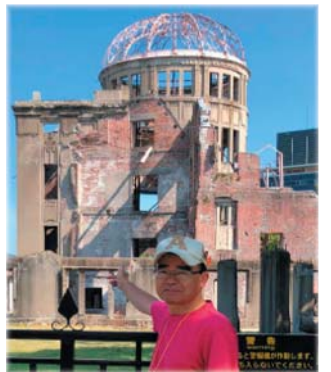
を」と連帯あいさつ。「市民と野党の共同」が大事だ。

禁止条約は「核軍縮の義務」への第一歩

世界大会2日目、午前中平和公園へ。原爆ドームにあいさつし、慰霊碑に黙祷し、平和資料館へ。地下に降りて日赤病院特別展示、新資料展へ。「国にとって父は何十万人の内の一でしようが、私たちにとって父は全てだったので」の言葉が胸に突き刺さった。

昼からは、フォーラム「核兵器禁止・廃絶へ、政府とNGOの対話」に参加。私は毎年このフォーラムに参加し、核兵器廃絶に関する世界と日本のホットな情報をつかむようにしている。

日本原水協の高草木博代表は、世界大会の歴史に触れながら、NPTと禁止条約採択の過程に見られた力関係の変化を紹介し、2010年NPT会議で核保有国に約束させた「核保有国の核軍縮の義務」を



行させるのは世論の力であり、禁止条約はその一歩となる」と、NPTと禁止条約は相乗的に力を発揮することを強調し、「NPTは核保有国を利する不平等なもの」「NPTと禁止条約は矛盾するのでは」との疑問が海外代表の発言や高草木さんの指摘でしつかり解明された。

政府は核兵器のない世界へ役割発揮を

6日、広島市平和祈念式典。平和宣言の中で、松井広島市長は安倍首相を前にして「核抑止や核の傘という考え方は、長期にわたる世界の安全を保障するには極めて不安定で危険極まりないもの」「日本政府には核兵器禁止条約の発効に向けた流れの中で、日本国憲法が掲げる崇高な平和主義を体現するためにも、国際社会が核兵器のない世界の実現に向けた対話と協調を進めるよう、その役割をはたしていただきたい」と

強調。それに対して安倍首相は「核兵器禁止条約」については一言も触れずじま。情け無い首相だ。

昨年10月の台風で鳥居が南側に傾いた。その際、神社としては費用の点からすぐに改修工事はできないと判断し、南側から棒で支えるという応急対策をした。

今宮神社の大鳥居が撤去 早い復活を

接近などこのままでは住民に不安と迷惑がかかる、と考えた神社は改修計画を前倒しして鳥居の解体・撤去を判断して周辺のお宅を訪問して説明し、意見を聞いた。共通して神社の提案を支持された。

上がっている。早い復活を願っている。

解体された鳥居は北大路大宮下るにある御旅所に保存され、台座は残して銅板



お知らせ

9月3日(月)に京都市美術館の今後のあり方について京都市会議員団の報告・懇談会を開きます。美術館に関心ある方、京都市の文化・芸術政策に意見のある方、に限らずお気軽にご参加ください。

時間：19時
場所：ハートピア京都 大会議室(ホール)

